

ひだまりの郷だより

第22号

発行：社会福祉法人ひだまりの郷あなん 阿南学園

〒399-1501 長野県下伊那郡阿南町北條 1580

TEL 0260-22-2100 FAX 0260-22-2101

✉ a-gakuen@orion.ocn.ne.jp



今年もがんばりました!



阿南学園の改築について

理事長 松澤 康夫

阿南学園が社会福祉法人ひだまりの郷あなんの運営となつて八年が経とうとしています。

さて、今後の法人の運営を考えると、築四十年を過ぎ老朽化が目立つ阿南学園の改築は避けられない課題であります。

この改築計画は、当初民設民営を目指して法人が主体となつて南信州広域連合や阿南町と共に国及び県当局へ補助金を要望してまいりました。ところが、障がい者支援施設に対する補助金枠が少なく補助金の確保は困難であることが判明致しました。

これを受け昨年八月に開催された南信州広域連合会議において、起債により公設で改築を進めるという方針が決定されました。法人としては、阿南学園の改築を進めることが優先されますので、公設での改築を決定した南信州広域連合の提案に賛同いたしました。その後、改築場所についても、現在地での改築については、土砂災害防止法等の規制があり、当初計画した施設の機能が確保できない状況となりました。そこで、阿南町との協議の結果、同じ川田区内の新たな場所へ移転改築することとなりました。

最後に残った課題は、改築財源の問題ですが、事業費の七割が交付税で措置される施設整備事業債と過疎対策事業債を活用し、阿南町が事業主体となつて改築を進めるという方針が阿南町議会並びに広域連合議会で承認されました。なお、三割の返済財源につきましては、南信州広域連合の基金と法人の改築整備積立金で賄うこととしています。

法人としては、今回の改築に関しては事業主体となる阿南町並びに地域の皆様と協議しながら進めたいと考えています。なお、今後の法人運営については、法人と職員が心を合わせて「一人ひとりが主人公」という法人の基本理念のもと利用者の権利を擁護しつつ福祉の向上を図って参ります。併せて地域の在宅障がい者支援の拠点としての役割が果たせるような運営を目指します。

今後とも地域の皆様の変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

研修報告

■栄養士会研修

一日にどれだけ誰かとお話しして、何回笑っていますか？栄養士会研修を基に職員間で自分の喉仏の位置を確認、クッキーと水を使った誤嚥体験、ミキサー食試食体験など「食べる」ということについて研修を行いました。一人で居ると口を動かす機会が減り、喉仏が下がってしまふことが飲み込み力（嚥下）低下の要因の一つです。いつまでも美味しく食べる、飲むために、たくさんおしゃべりして、どんどん笑い、喉のトレーニングをしましょうね！（栄養士 佐々木ゆか）

■新人研修

新人研修に浅間温泉文化センターに行ってきました。講習を受

ひなたぼっこ便り

放課後等デイサービス

今年の夏は、大変暑く夏休み中は、B&Gプールでのプール遊びは欠かせませんでした。でも、今年の熱さは半端なく、シャワーはお湯のごとく暑く、プール室内は

50度を超え、プールの水はぬるま湯をはるかに超える水温でしたが、元気がよい水遊びを楽しみました。秋になり、知り合いから蜂谷柿を頂き早速柿剥きをし、皆で柿のれんを作り干しました。美味しうそ、柿も段々と乾いて来て暫くすると、柿も段々と乾いて来た。そんな時、ひなたぼっこに行くのと干した柿が何者かに食べられていたのです。「……」このままだとせつかくの柿もなくなってしまう。足跡がわかるように地面に石灰をまき、一夜が過ぎました。翌朝行ってみ



調理室から

私たち調理員は、男性一人、女性四人、利用者さん一人の六人と、栄養士で毎日の食事を、おいしく、楽しくしようと日々頑張っています。利用者さんからの「美味しかったよ」「またつくってね」の言葉がとても励みになります。そして、いつも利用者さんが配膳車を各寮まで運んでくれて、食後の片付けを手伝ってく



よろしくお願ひします

こんにちは、この度十二月からまた阿南学園にお世話になる事になりました勝野大地です。二年ほど前に他の仕事を経験したいと、一度阿南学園を離れました。しかし日に日に「阿南学園で仕事をしたい。」気持ちが強くなり、今回再びお世話になるチャンスがあり思い切ってお願ひしました。復帰させて頂いて一生懸命誠実に取り組んでいきます。（勝野大地）



生活支援員 (右) 松島美智子 (左) 勝野大地

編集後記

一年を振り返って

いよいよ二〇一八年も師走、一年を振り返る時期となりました。今年には多くの自然災害に見舞われる事が多く、残念ながら沢山の尊い命が奪われてしまいました。人間は宇宙へ行く技術があつても、明日の天気が分かって、台風の前線が計算出来ても、自然には到底かなわないんだなあ」と、つくづく感じられる一年でした。

さて、来年はどんな年になるでしょうか。期待と希望を胸に、また、心新たに新春を迎えたいと思います。それでは皆さんも、良いお年をお迎えください。（佐々木貴子）

